The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 巣守巻の新資料 ： 伝六条有純筆源氏物語古系図切の紹介 |
| Author(s) | 伊井, 春樹 |
| Citation | 大阪大学古代・中世文学研究会会報. 1985, 1, p. 2-4 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/67225 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# 巣守巻の新資料

## ―伝六条有純筆源氏物語古系図切の紹介―

伊井　春樹

院政期から鎌倉期にかけて、今日一般に読まれる五十四帖の『源氏物語』とは系列を異にする巣守巻が存したことは、つとに池田亀鑑博士の『源氏物語古系図』の整理によって明らかにされた。その資料から、かつて存在した巣守物語が想定され（『源氏物語大成』巻七・研究資料篇）、さらに発展して稲賀敬二氏は現宇治十帖の成立に大きく関与していることを論じられた（『源氏物語の研究』）。これについて中野幸一氏はすぐさま反論し、むしろ宇治十帖を模した後の物語と位置づけられる（『物語文学論攷』）。その後賛否両論が示されたが、今のところは常磐井和子氏の詳細な分析によって、巣守物語は『源氏物語』第三部の物語の種々の要素を取り入れて、後に成立した（『源氏物語古系図の研究』）とする考えに落ち着いているかと思われる。

ここではこの論争に深入りするのを避け、これま

で知られていなかった巣守巻に関する資料の古筆断簡を紹介するにとどめる。それは古筆手鑑『花月』に押された一葉で、筆者を六条有純卿とする。

蛍兵部卿親王――――┬――源三位――┐
　母不詳　　　

女との結婚などから考えると、それほど年齢が違っていたようにはおもわれない。一方の斎院は、桐壺の即位で卜定したとなると、当時幼い少女であったにしても、明らかに蛍宮よりは年上である。末摘花の女房侍従の君が、その前斎院のもとにも仕えていたという。

わずかに一枚の断簡で、書かれた内容もわずかだが、物語には記されなかった背景が想像されてくる。なお、ほかにつれは、東山御文庫蔵『豪海』にも一葉見いだす。伝称筆者の六条有純は、江戸初期の公卿である。

（本学文学部）